

広島県の中山間地域の現状認識と課題

H26.1 中山間地域振興推進本部事務局

1 中山間地域の概況

○広島県で中山間地域を有する市町数は19市町である。(表1)

○広島県の中山間地域は、人口では県全体の約1割、面積では約7割を占める。(表2)

【表1】中山間地域を有する市町数

中山間地域市町数		該当市町
全域	9	三次市, 庄原市, 安芸高田市, 江田島市, 安芸太田町, 北広島町, 大崎上島町, 世羅町, 神石高原町
一部	10	広島市, 呉市, 竹原市, 三原市, 尾道市, 福山市, 府中市, 大竹市, 東広島市, 廿日市市
該当地域なし	4	府中町, 海田町, 熊野町, 坂町

【表2】人口及び面積

項目	人口	面積
広島県全域	2,860,750人	8,480k m ²
うち中山間地域(構成比)	351,578人(12.3%)	5,952k m ² (70.2%)

※人口はH22国勢調査、面積は農林業センサス2010による。ただし、一部離島の面積はH22国勢調査による。

2 これまでの取組

○昭和45年以降，広島県及び県内市町で実施した中山間地域対策の事業費の総額は，約3.5兆円となっている。(表3)

【表3】中山間地域対策事業の実績(上段：県・市町事業総額，下段：県事業費)

(単位：百万円)

	S45～ S54年度	S55～ H1年度	H2～ H11年度	H12～ H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	合計
産業の振興	48,353 (18,804)	181,744 (67,466)	319,751 (156,627)	176,895 (93,813)	10,647 (5,946)	15,468 (5,629)	11,438 (5,603)	764,296 (353,888)
交通通信体系の整備	182,747 (98,292)	346,511 (185,908)	583,535 (373,202)	424,991 (258,175)	20,671 (9,580)	17,657 (9,012)	20,851 (10,171)	1,596,963 (944,340)
生活環境の整備	95,025 (35,961)	46,422 (3,398)	225,445 (22,546)	250,955 (49,206)	21,745 (9,725)	18,798 (8,715)	20,611 (9,179)	679,001 (138,730)
福祉の増進			57,761 (0)	43,449 (1,107)	5,299 (3,037)	5,583 (3,827)	4,989 (2,060)	117,081 (10,031)
医療の確保		11,152 (1,954)	20,326 (21,620)	14,302 (1,985)	2,405 (294)	2,917 (394)	3,631 (456)	56,027 (6,377)
教育の振興		54,159 (2,973)	106,531 (6,175)	49,435 (484)	4,993 (127)	4,256 (127)	7,627 (247)	227,001 (10,113)
地域文化の振興				14,345 (775)	279 (61)	359 (61)	291 (63)	15,274 (960)
集落の整備		2,400 (0)	8,280 (1,682)	11,018 (1,343)	757 (0)	1,319 (0)	1,950 (0)	25,724 (3,025)
その他		10,031 (0)	20,225 (0)	15,805 (2,274)	351 (36)	341 (100)	186 (0)	46,939 (2,410)
計		326,125 (153,057)	652,419 (261,699)	1,343,148 (561,526)	1,001,195 (409,162)	67,147 (28,806)	66,698 (27,865)	71,574 (27,779)

※過疎地域自立促進計画の事業実績調査（総務省）による。

※この中山間地域は，過疎地域を指す。

3 人口の状況

(1) 人口構成

○広島県の中山間地域は、全国に比べ、65歳以上人口の比率が高く、高齢化が進んでいる。(表4)

【表4】人口構成

	広島県		全国	
	全 域	うち中山間地域	全 域	うち中山間地域
15歳以上～64歳未満	1,765千人 (61.7%)	149千人 (52.5%)	81,031千人 (63.3%)	5,711千人 (55.3%)
65歳以上	677千人 (23.7%)	104千人 (36.7%)	29,246千人 (22.8%)	3,427千人 (33.2%)
合計	2,861千人 (100.0%)	284千人 (100.0%)	128,057千人 (100.0%)	10,326千人 (100.0%)

※H22国勢調査による。なお、65歳以上人口は年齢不詳人口を除くため、合計は一致しない。

※この中山間地域は、過疎地域を指す。

(2) 人口移動

○広島県の中山間地域は、広島県全域に比して、人口規模割合で大きく人口が減少している。

(表5)

○広島県の中山間地域の転出超過は、仕事(「就職」「転勤・転業」)や就学などを理由とするものが多い。(表6)

○広島県は、大都市圏への転出超過及び20～24歳の年齢層の転出超過が大きい。(中山間地域においても同様の傾向があるのではないかと想定される。)(表7, 8)

【表5】人口移動の内訳 (H20-H24 平均)

	社会増減	自然増減	計	H24人口
広島県全域	▲2,575人	▲2,110人	▲4,684人	2,849,104人
うち中山間地域	▲1,104人	▲2,234人	▲3,338人	212,214人

※人口移動統計調査(甲調査)による。 ※この中山間地域は、全域過疎市町の区域を指す。

【表6】転入転出差引と移動の要因(主因者・H20-H24 平均)

(単位:人)

	就職	転勤・転業	退職・廃業	就学	卒業	婚姻	住宅	その他・不詳	計
広島県全域	▲1,234	▲973	204	▲1,184	105	▲240	23	▲364	▲3,663
うち中山間地域	▲605	▲393	68	▲227	12	▲224	▲72	▲291	▲1,731

※人口移動統計調査(乙調査)による。 ※この中山間地域は、全域過疎市町の区域を指す。

【表7】 移動前住所の転入転出差引 (H24)

移動前住所	転入転出差引
北海道	58 人
東北地方	▲123 人
関東地方	▲1,500 人
うち東京都	▲842 人
うち神奈川県	▲505 人
中部地方	▲163 人
近畿地方	▲1,538 人
うち大阪府	▲812 人
うち兵庫県	▲428 人
中国地方	562 人
うち岡山県	▲475 人
うち山口県	777 人
四国地方	114 人
九州地方	▲196 人
うち福岡県	▲438 人
計	▲2,786 人

※住民基本台帳人口移動報告による。

【表8】 年齢別の転入転出差引 (H24)

	広島県	[参考] 岡山県	[参考] 山口県
0-19 歳	▲295 人	289 人	▲949 人
20-24 歳	▲1,472 人	▲636 人	▲2,161 人
25-29 歳	▲362 人	▲386 人	▲521 人
30-49 歳	▲440 人	562 人	▲190 人
50-69 歳	▲154 人	603 人	511 人
70 歳以上	▲62 人	▲28 人	▲325 人
計	▲2,785 人	404 人	▲3,635 人

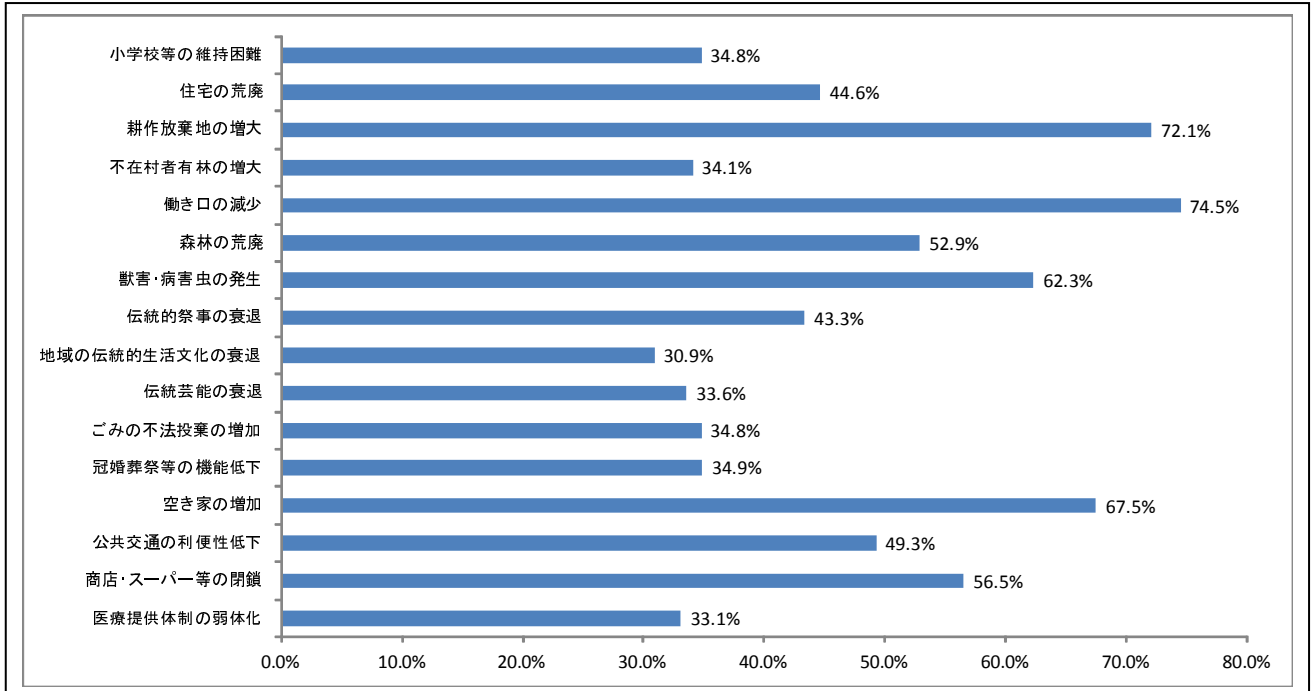
※住民基本台帳人口移動報告による。

4 集落の状況

- 中山間地域の多くの集落において発生している問題として、産業基盤に関する「耕作放棄地の増大」「働き口の減少」や、生活基盤に関する「空き家の増加」「商店・スーパー等の閉鎖」などを掲げる意見の割合が多い。(表 9)
- 中山間地域の集落単独では維持が困難になっている活動としては、農作業や道路や側溝の草刈りや、祭りなどの地域文化の保存継承などを掲げる意見の割合が多い。(表 10)

【表 9】多くの集落で発生している問題や現象（上位項目）（全国）

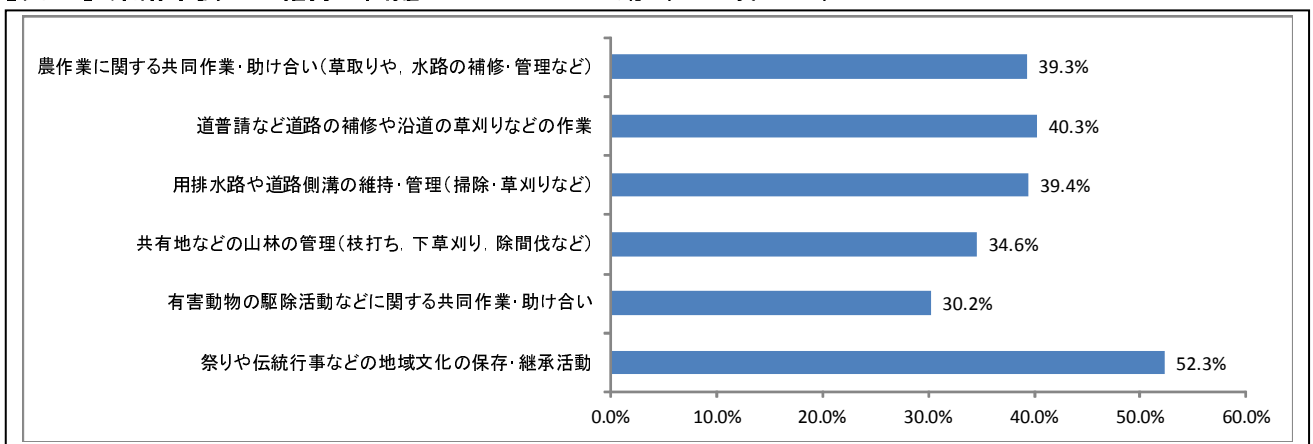
(単位：%)



※「過疎地域等における集落の状況に関する現況把握調査報告書」(H23 総務省)による。(過疎関係市町村へのアンケート結果)

【表 10】集落単独では維持が困難になっている活動（上位項目）（全国）

(単位：%)



※「過疎地域における集落対策及びソフト事業の実施状況に関する調査報告書」(H24 総務省)による。(過疎関係市町村へのアンケート結果)

5 中山間地域の将来予想

○広島県の中山間地域の人口は今後も減少傾向で推移し、その減少率は、各年齢層において、広島県全域に比べ高い割合となると推計されている。(表 11, 12)

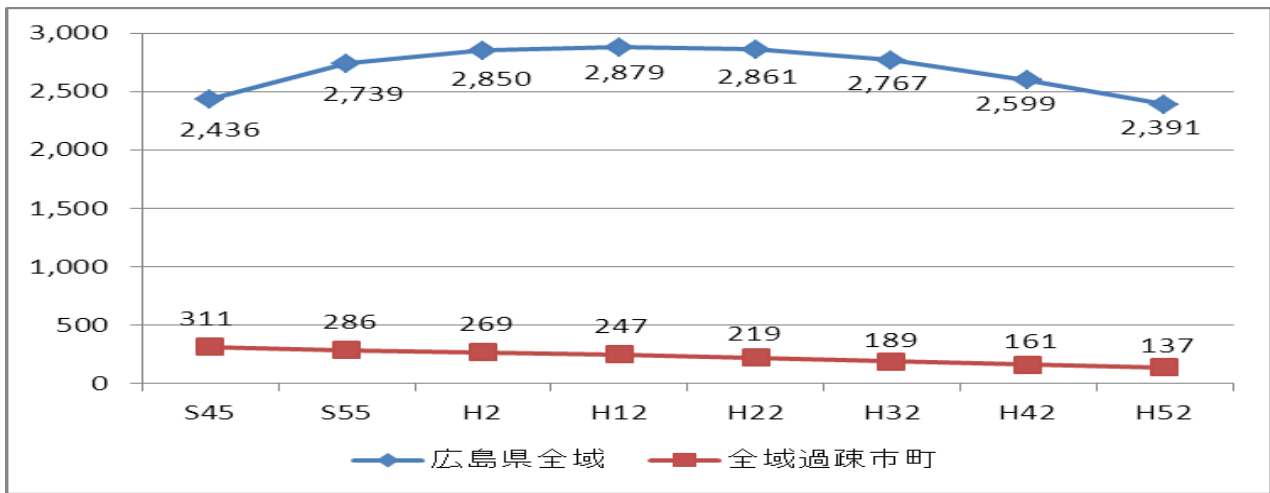
【表 11】 人口数の推計

(単位：千人，%)

	国調人口					推計人口			減少率 (H22-H52)
	S45年	S55年	H2年	H12年	H22年	H32年	H42年	H52年	
広島県全域	2,436	2,739	2,850	2,879	2,861	2,767	2,599	2,391	▲16.4
うち中山間地域	311	286	269	247	219	189	161	137	▲37.5

※人口は国勢調査，推計人口は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(H25.3)による。

※ここの中山間地域は、全域過疎市町の区域を指す。



【表 12】 年齢構成の推計 (人数, 割合)

(単位：千人，%)

	H22年	推計人口						減少率 (H22-H52)
		H27年	H32年	H37年	H42年	H47年	H52年	
広島県全域	2,861	2,825	2,767	2,689	2,599	2,499	2,391	▲16.4
0-14歳	387 (13.5)	367 (13.0)	341 (12.3)	311 (11.6)	284 (10.9)	267 (10.7)	256 (10.7)	▲33.8
15-64歳	1,788 (62.5)	1,664 (58.9)	1,587 (57.4)	1,533 (57.0)	1,476 (56.8)	1,391 (55.7)	1,271 (53.2)	▲28.9
65歳以上	686 (24.0)	794 (28.1)	839 (30.3)	844 (31.4)	839 (32.3)	840 (33.6)	864 (36.1)	26.0
うち中山間地域	219	204	189	175	161	149	137	▲37.5
0-14歳	24 (11.1)	22 (10.7)	19 (10.1)	17 (9.6)	15 (9.3)	14 (9.3)	13 (9.5)	▲46.6
15-64歳	116 (53.0)	101 (49.8)	91 (48.2)	83 (47.6)	77 (47.9)	71 (47.8)	64 (46.5)	▲45.2
65歳以上	79 (35.9)	80 (39.5)	79 (41.7)	75 (42.8)	69 (42.8)	64 (42.9)	60 (44.0)	▲23.4

※人口は国勢調査，推計人口は国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(H25.3)による。

※ここの中山間地域は、全域過疎市町の区域を指す。

◆**県・市町協議の意見** ※中山間地域振興協議会推進会議（県・市町の所管課協議体）における意見。以下同じ。

- ・中山間地域の継承者がいなくなりつつある。少し前までは、人口減少とはいえ、地域に次世代を担う方がいた。今はいなくなってきた。地域継承のサイクルが崩れつつある。
- ・地域に若者がいない。70歳台の方が、さらに上の年代の方を支えている地域もある。
- ・人口の減少幅が小さくなりつつある。地域から転出する人間さえ少なくなってきた。
- ・住民アンケートでは、若者が転出を希望する傾向がある。
- ・転出者の子供の世代までは、まだ中山間地域が故郷だが、孫の世代になると転出先が故郷になる。中山間地域との関わりが切れてしまう。
- ・行政もスリムにならざるを得ないし、地域も担い手が減る。地域づくりを行う人間がいない。
- ・全体としては、今後も中山間地域は縮小傾向で推移すると考えられる。ただし、中山間地域の価値を見出し、回帰する流れも存在すると感じる。

◆**データや意見のまとめ**

- ・広島県全域と比較して人口密度が低く、かつ高齢者率が高い。
- ・人口規模に比して高い割合の人口減少規模で推移しており、かつ、社会増減、自然増減ともマイナス傾向で推移している。
- ・社会減（転出超過）は仕事（「就職」「転勤・転業」）を理由とするものが多く、次いで就学、婚姻を理由とするものが多い。
- ・社会減（転出超過）は、20代前半の大都市圏への流出が多いと予想される。
- ・中山間地域の継承者や地域づくりを担う人材が、地域からいなくなりつつある。

◆**中山間地域の将来予想** ※現状のまま推移した場合

- ・今後も人口は減少傾向で、減少率は広島県全域に比べ高い割合で推移する。地域の担い手の確保が困難になる。

6 住民の意識 ※仮置き（住民アンケートを別途実施予定）

○県政世論調査においては、現在の暮らし向きの満足度は、広島県全域と中山間地域で顕著な差は見られない。ただし、今後の暮らし向きが良くなると思う人の割合は、広島県全域より中山間地域の方が少ない。

また、今後の暮らし向きについては、年齢層の上昇に伴い、悪くなると思う人の割合が増加する。

（表 13, 14, 15, 16）

【表 13】現在の暮らし向き

（単位：％）

		広島県全域			うち中山間地域		
		H23	H20	H17	H23	H20	H17
満足	十分満足している	9.1	6.0	8.3	4.5	4.4	5.3
	一応満足している	58.3	52.8	60.3	66.9	47.8	62.1
	小計	67.4	58.8	68.6	71.4	52.2	67.4
不満	まだまだ不満	19.5	24.8	18.7	19.7	27.6	16.7
	極めて不満	7.8	13.4	8.8	5.2	14.3	9.3
	小計	27.3	38.2	27.5	24.9	41.9	26.0
分からない		2.2	0.8	2.4	1.1	3.3	5.3
無回答		3.1	2.2	1.6	2.6	2.6	1.3

【表 14】今後の暮らし向き

（単位：％）

		広島県全域			うち中山間地域		
		H23	H20	H17	H23	H20	H17
良くなる	非常に良くなると思う	1.8	1.5	1.9	0.4	0.4	0.0
	少しは良くなると思う	11.6	7.7	12.2	11.5	4.0	7.5
	小計	13.4	9.2	14.1	11.9	4.4	7.5
変わらない		30.0	23.3	29.6	33.8	18.0	30.8
悪くなる	少し悪くなると思う	35.8	40.4	35.5	37.2	43.0	34.4
	非常に悪くなると思う	12.3	20.4	12.0	9.3	27.9	18.5
	小計	48.1	60.8	47.5	46.5	70.9	52.9
分からない		5.4	4.5	7.9	5.2	4.0	7.5
無回答		3.1	2.1	0.8	2.6	2.6	1.3

※県政世論調査による。 ※この中山間地域は、県政世論調査における備北地方生活圏（三次市、庄原市）を指す。

【表 15】現在の暮らし向き（H23・年齢別）

（単位：％）

		20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	全体
満足	十分満足している	15.8	12.7	9.6	5.6	6.3	9.3	9.1
	一応満足している	47.9	59.8	52.8	52.3	66.0	61.1	58.3
	小計	63.7	72.5	62.4	57.9	72.3	70.4	67.4
不満	まだまだ不満	25.5	21.6	21.7	28.8	13.5	14.7	19.5
	極めて不満	6.7	4.2	14.0	9.1	8.1	5.3	7.8
	小計	32.2	25.8	35.7	37.9	21.6	20.0	27.3
分からない		2.9	1.6	0.0	1.9	3.0	3.0	2.2
無回答		1.1	0.1	1.9	2.3	3.1	6.6	3.1

※県政世論調査による。

【表 16】 今後の暮らし向き (H23・年齢別)

(単位：%)

		20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	全体
良くなる	非常に良くなっていくと思う	4.6	4.1	1.9	2.4	0.4	0.4	1.8
	少しは良くなっていくと思う	34.9	24.1	8.3	9.6	3.6	7.1	11.6
	小計	39.5	28.2	10.2	12.0	4.0	7.5	13.4
変わらない		23.8	33.5	34.6	18.7	25.0	39.3	30.0
悪くなる	少し悪くなっていくと思う	15.7	29.3	36.4	44.7	46.5	30.8	35.8
	非常に悪くなっていくと思う	6.4	5.1	11.9	18.9	17.0	9.9	12.3
	小計	22.1	34.4	48.3	63.6	63.5	40.7	48.1
分からない		12.6	3.9	5.2	4.2	4.3	5.7	5.4
無回答		1.9	0.1	1.9	1.7	3.1	6.7	3.1

※県政世論調査による。

◆県・市町協議の意見

- ・中山間地域の住民は、人口推計について漠然と知っていると思う。
- ・将来はともかく、現時点においては、地域の課題やニーズは、昔とそれほど変わっておらず、現在の暮らしについても大きな不満がある訳ではないと思う。住民意識については、不安定な中での安定期という印象を受ける。ただし、10年後には厳しい状況になるのではないか。
- ・中山間地域で住民アンケートを行ったところ、住みやすい、住み続けたいという意見が多かった。地域に愛着を持っていると思う。ただし、暮らしやすさの尺度や今後の居住意向は、若い世代と高齢者で異なるのではないか。
- ・都市部はどんどん良くなっていくのに、中山間地域はあまり変わらないという意識はあると思う。
- ・住民に、現状についての諦め感や他人事感、地域についての誇りの喪失が見受けられる。家庭等において、若者に都市部への転出を促すような話が出てしまっている。
- ・マイナス思考が先に立ち、中山間地域の良さが前面に出てきていない印象がある。
- ・葬祭などにおける地域の共同作業の縮小により、地域とのつながりが薄れてきている。
- ・地域の将来像が見えないため、住民が不安感を抱いているのだと思う。住民も、何をどうすれば状況が改善されるのか分からない状態。
- ・現状について、危機感を持っている地域と持っていない地域がある。また、地域を良くしようと一所懸命な住民と、仕方ないと諦めている住民の差が激しい。
- ・現状について危機感を持ち、取組を進めている地域には魅力のあるリーダーがいる。
- ・中山間地域において住民アンケートを実施したところ、現在の居住地に住み続けたいという回答が多数だった。居住地の集約化やコンパクト化は望んでいない。
- ・住民ニーズは、同じ自治体内でも地区によって異なる。年齢によっても思いが違う。

◆データや意見のまとめ

- ・今後の暮らし向きが良くなると思う人の割合が、広島県全域に比べ少ない。
- ・地域の将来像が見えないことから、住民が不安感を抱いていると考えられる。
- ・現状についての諦め感や他人事感、地域についての誇りの喪失が見受けられる。

◆中山間地域の将来予想 ※現状のまま推移した場合

・人口減少や産業雇用・定住環境の縮小に伴い、地域における今後の暮らし（将来の生活）に不安感を抱く方が増加する。また、住民の諦め感が加速する。

7 産業雇用

○広島県の中山間地域は、農業産出額や小売業事業所数等が減少傾向にある。（表 17、表 18）

【表 17】 農業産出額の状況

（単位：千万円）

	S60 年	H2 年	H12 年	H18 年	S60-H18	
					差引	増減率
広島県全域	16,133	13,842	11,600	10,690	▲5,443	▲33.7%
うち中山間地域	7,656	6,786	5,833	5,487	▲2,169	▲28.3%

※農林センサスによる。 ※この中山間地域は、全域過疎市町の区域を指す。

【表 18】 小売業の状況

（単位：事業所，人，%）

	H14 年	H19 年	H14-H19	
			差引	増減率
広島県				
事業所数	30,929	27,035	▲3,894	▲12.6%
就業者数	199,312	191,731	▲7,581	▲3.8%
うち中山間地域				
事業所数	3,696	3,198	▲498	▲13.5%
就業者数	17,087	15,595	▲1,492	▲8.7%

※商業統計調査による。 ※この中山間地域は、全域過疎市町の区域を指す。

8 定住環境

○広島県の中山間地域における道路改良率や水洗化率などは、広島県全域との差は縮小しつつある。（表 19）

○広島県の中山間地域は、医療施設従事医師数が減少している。（表 20）

○県内全ての市町において、交通支援を講じている。（表 21）

○広島県の中山間地域は、小中学校数及び児童生徒数が減少傾向にある。（表 22）

【表 19】 施設の整備状況

（単位：%）

	市町道・道路改良率			市町道・道路舗装率			水洗化率		
	広島県全域	中山間地域	差引	広島県全域	中山間地域	差引	広島県全域	中山間地域	差引
S50 年	19.1	11.5	7.6	32.8	17.2	15.6	44.0	10.9	33.1
S60 年	35.4	29.7	5.7	70.2	57.0	13.2	52.0	14.1	37.9
H 7 年	46.1	43.4	2.7	82.1	74.4	7.7	67.8	28.2	39.6
H20 年	53.3	52.8	0.5	86.3	80.2	6.1	86.6	64.8	21.8

※この中山間地域は、過疎地域を指す。ただし、H20 年においては一部データを取得できない区域を過疎地域から除いている。

【表 20】 医療施設従事医師数の状況

	H18 年	H20 年	H22 年	差引(H18-H22)
広島県全域	6,398 人	6,524 人	6,748 人	350 人
うち中山間地域	418 人	412 人	390 人	▲28 人

※医師・歯科医師・薬剤師調査による。

※ここの中山間地域は、全域過疎市町の区域を指す。

【表 21】 市町による交通支援の状況

	市町数
バス運行等の支援を行う市町数	23

※地域政策総務課調べによる。

【表 22】 学校数等の状況

		H18 年	H20 年	H22 年	H24 年	H18-H24	
						差引	増減率
広島県 全 域	小中学校数	893 校	874 校	853 校	829 校	▲64 校	▲7.2%
	児童生徒数	248,320 人	245,987 人	242,169 人	237,588 人	▲10,732 人	▲4.3%
うち中山 間地域	小中学校数	201 校	191 校	179 校	164 校	▲37 校	▲18.4%
	児童生徒数	17,339 人	16,318 人	15,634 人	14,988 人	▲2,351 人	▲13.6%

※学校基本調査による。 ※ここの中山間地域は、全域過疎市町の区域を指す。

9 重要と考える施策（住民の意識） ※仮置き（住民アンケートを別途実施予定）

○県政世論調査においては、最も重要と考える施策は、広島県全域・中山間地域とも、高齢者・雇用・社会福祉・子育て支援などの割合が高い。また、中山間地域においては、広島県全域に比べ農林水産の割合が高い。

ただし、20歳代は「雇用安定・勤労者福祉対策」「子育て支援対策」の割合が高く、70歳代以上は「高齢者対策」の割合が高いなど、年齢層によって、最も重要と考える施策は異なる。

（表 23, 24）

【表 23】最も重要だと思う施策（上位項目）

（単位：％）

	広島県全域			うち中山間地域		
	H23年	H20年	H17年	H23年	H20年	H17年
上水道・下水道・ゴミ・し尿処理	2.1	2.3	4.4	4.1	2.6	4.0
自然環境・環境対策	2.9	5.2	4.0	4.1	5.1	3.1
消防・防災・危機管理対策	3.5	1.1	1.0	1.5	0.4	0.0
犯罪防止	3.3	5.4	9.7	0.7	1.5	4.0
治山・治水・河川・砂防	2.9	0.5	1.8	1.9	1.1	0.0
保健医療	4.5	8.6	5.5	7.8	8.8	7.5
社会福祉・社会保障	8.4	11.4	11.9	6.3	8.1	10.6
高齢者	17.3	17.1	13.1	20.4	14.7	17.6
消費者・物価	3.9	10.1	3.4	1.5	11.4	3.1
教育	5.2	6.1	7.0	3.0	5.5	6.6
青少年の健全育成	1.7	2.9	6.6	2.2	2.2	4.8
子育て支援	7.4	7.3	-	8.6	8.5	-
農林水産業の振興	1.3	1.7	1.1	5.2	6.6	2.2
商工業の振興	1.5	0.4	0.6	0.4	1.1	1.3
観光振興(観光・レクリエーション施設の整備(H17))	0.7	0.1	0.3	0.7	0.4	1.8
雇用安定・勤労者福祉	16.5	7.5	6.6	13.8	8.5	9.7
道路・空港・港湾・鉄道など交通施設整備	2.9	1.2	4.9	1.5	1.1	2.6
資源・エネルギー	2.1	2.8	1.5	1.9	2.6	1.8

※県政世論調査による。 ※この中山間地域は、県政世論調査における備北地方生活圏（三次市、庄原市）を指す。

【表 24】最も重要だと思う施策（上位項目/H23・年齢別）

（単位：％）

	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	全体
上水道・下水道・ゴミ・し尿処理	0.0	1.7	1.5	1.0	1.7	4.5	2.1
自然環境・環境	3.1	2.5	3.1	5.3	3.0	1.3	2.9
消防・防災・危機管理	5.4	3.6	4.2	2.6	5.0	1.7	3.5
犯罪防止	5.4	2.7	4.3	2.6	2.7	3.3	3.3
治山・治水・河川・砂防	0.0	1.3	3.3	2.4	3.3	4.3	2.9
保健医療	4.2	5.8	3.1	5.0	3.6	5.2	4.5
社会福祉・社会保障	5.5	9.7	6.6	15.9	8.9	4.5	8.4
高齢者	4.6	6.9	9.6	16.0	27.6	23.0	17.2
消費者・物価	6.4	4.6	8.1	3.4	2.3	2.0	3.9
教育	4.4	8.0	8.1	2.9	4.3	4.7	5.2
青少年の健全育成	0.0	0.5	2.0	1.1	0.9	4.0	1.7
子育て支援	18.8	23.9	5.2	3.1	3.1	2.4	7.4
農林水産業の振興	1.2	0.6	2.8	1.8	0.1	1.7	1.3
商工業の振興	3.9	2.5	0.0	1.8	1.6	0.7	1.5
観光振興(観光・レクリエーション施設の整備(H17))	2.9	1.5	0.1	0.0	0.0	0.8	0.7
雇用安定・勤労者福祉	21.8	14.8	24.0	22.3	14.9	8.9	16.5
道路・空港・港湾・鉄道など交通施設整備	4.6	1.8	4.5	2.6	2.4	2.7	2.9
資源・エネルギー	1.6	1.4	0.9	3.4	3.6	1.1	2.1

※県政世論調査による。

◆県・市町協議の意見

[産業雇用]

- ・地域に雇用の場が少ない。転出して他地域で働いている。大学への進学時に地域から転出し、そのまま他地域で就職するケースが多い。
- ・中山間地域への移住を希望する方や、地域に住み続けることを希望する学生もいる。しかし、雇用の場が少ないので厳しい。定年退職後にUターンされた方が、年金が出るまで働く場も少ない。
- ・地場産業の衰退や企業の支店・公共施設の撤退などにより、雇用の場が減っている。
- ・雇用や消費の場としての地域の商店が弱まっていると感じる。また、地域の建設業者が減少している。工事を発注しようにも技術者がいなくなっている。
- ・農業者が高齢化している。耕地を広くすると労力も大きくなる。集落法人においても後継者の確保が課題。
- ・都市部から中山間地域に働きに来る例もある。中山間地域に雇用の場が全くない訳ではないが、希望職種とのミスマッチもあると思う。

[定住環境]

- ・担い手の高齢化により、地域の伝統行事や共同作業の実施や継承が困難になってきている。
- ・地域からは、課題として医療、買い物環境の確保や鳥獣害対策などが挙がる。バス停まで行くことが困難な高齢者もいる。医療施設や店舗がある地域への交通手段の確保も重要。
- ・安全・安心の確保も住民ニーズとしてあるが、自主防災組織の高齢化が進んでいる。また、地域に若者が少ないため、同じ方が地域活動の役員に複数就任する状態であり、コミュニティの維持が懸念される。
- ・道路の整備状況は良くなっているが、維持修繕がこれからの課題となる。また、歩道が無い道路や狭い通学路への対応など、住民ニーズとして、道路改良に関するものは多い。
- ・島嶼部においては、港湾の老朽化も大きな課題。また、有料の架橋料金に負担感がある。島で生活が完結すれば良いが、医療施設や教育施設が島外にある。
- ・教育環境の確保も課題。地域としては学校が必要とする意見が多い。ただし、子供のいる家庭では小規模校を避けたり、より高い学力を育むために地域外の学校へ通学させるケースも存在する。
- ・山間部では集落が点在するが、島嶼部では沿岸部に集落が集まっている。集落のあり様が異なるため、課題やニーズも様相が異なると思われる。
- ・人口減少が産業や定住環境の縮小を招く悪循環になっている。

◆中山間地域における現状認識と課題

- ・道路改良率や水洗化率などは、広島県全域との差は縮小しつつある。
- ・医療施設従事医師数や学校数は減少している。(医療環境や子育て環境の広域化)
- ・農業産出額や小売業事業所数は減少している。(雇用の場や日常生活に必要な商店等の縮小)
- ・地域に雇用の場が少ない。雇用の場や産業の後継者の確保が課題となっている。
- ・交通、安全安心、コミュニティなども課題となっている。
- ・共同作業の実施や地域文化の保存、継承などの祭事・行事の実施が困難になりつつある。

◆中山間地域の将来予想 ※現状のまま推移した場合

- ・人口減少により、雇用や生活環境施設等が更に縮小する。
- ・祭事・行事などのコミュニティ活動の実施が更に困難になる。